

2025年2月17日

戦後80年にあたり、いまこそ唯一の戦争被爆国として核兵器廃絶の願いを一刻も早く実現する為に、「核兵器禁止条約」の署名・批准に向け、締約国会議および検討会議にオブザーバー参加を願う旨を、議会として政府に意見書の提出を求める陳情書

上越市議会

議長 渡 邊 隆 様

【陳情の要旨】

戦後80年の節目にあたる今年は、上越市にとっても「非核平和友好都市」を宣言してからちょうど30年の節目にあたります。そして昨年10月には日本被団協にノーベル平和賞が授与され、「ノーモア広島、ノーモア長崎、ノーモアウオー」の切なる日本国民の願いを強く世界に訴えることが出来ました。

しかしながら現実の世界はロシアのウクライナ侵略やパレスチナ紛争などに見られるように戦争状態が日々繰り広げられており、核兵器使用を許さない「核のタブー」の規範は壊されようとしています。本年1月28日には”人類最後の日”を想定した「終末時計」2025年版の時刻が進み、世界を核戦争の恐怖に震撼させたキューバ危機の時より更に短い過去最短の「残り89秒」になった事が米誌「原子力科学者会報」より発表されました。

日本国政府が「橋渡し」として位置付け核保有国と共に毎年提出している「核廃絶決議案」は、核兵器の無い世界の方向性を示してはいるが、残念ながら非現実的な目標に留まらざるを得ない状況であり、核廃絶の道を見い出せないでいます。日本政府として今こそ如何なる状況においても核兵器の使用・威嚇を例外なく許さない「核兵器禁止条約」の署名・批准に向き合うべきであり、唯一戦争被爆国である日本が、核兵器の無い平和な世界の実現に向けリーダーシップを発揮することが強く求められています。

【陳情事項】

政府は如何なる国の核兵器を是認しない「核兵器禁止条約」への署名・批准に向き合い、それまでの間は、締約国会議および検討会議にオブザーバーとして一刻も早く参加することを求めます。

2025年2月17日

上越市議会

議長 渡 邊 隆 様